



# 平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成30年11月9日

上場会社名 株式会社アルファポリス  
 コード番号 9467 URL <http://www.alphapolis.co.jp/company/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道 TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 平成30年11月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年3月期第2四半期の業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	2,249	21.9	609	196.4	609	196.2	390	197.2
30年3月期第2四半期	1,845	40.7	205	158.0	205	159.6	131	165.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	40.27	
30年3月期第2四半期	13.55	

(注)1. 当社は、平成30年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	6,095	4,816	79.0
30年3月期	5,640	4,426	78.5

(参考)自己資本 31年3月期第2四半期 4,816百万円 30年3月期 4,426百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		0.00	0.00
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成31年 3月期の業績予想(平成30年 4月 1日～平成31年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,800	13.9	1,200	58.4	1,200	58.5	800	55.9	82.58

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注)当社は、平成30年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成31年3月期の業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	9,687,400 株	30年3月期	9,687,400 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	120 株	30年3月期	120 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	9,687,280 株	30年3月期2Q	9,687,400 株

(注) 当社は、平成30年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

(株式分割後の業績予想について)

当社は、平成30年5月24日開催の取締役会において、平成30年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。なお、株式分割考慮前に換算した平成31年3月期の業績予想は以下のとおりとなります。

平成31年3月期の業績予想

1株当たり当期純利益 通期 165円16銭(注)

(注) 株式分割考慮前に換算した1株当たり当期純利益金額です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(追加情報) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善等を背景に、緩やかな回復基調が続いておりますが、海外経済の不確実性や地政学リスク等の懸念により、景気は依然として先行き不透明な状況で推移しております。

当社が属する出版業界におきましては、引き続き厳しい状況が続いております。出版科学研究所によると、平成30年上半期（1月から6月まで）の紙の出版物の推定販売金額は、前年同期比8.0%減となる6,702億円となりました。その内訳は、「書籍」が同3.6%減となる3,810億円、「雑誌」は同13.1%減の2,892億円となっており、「雑誌」が特に厳しい状況となっております。一方、電子出版物については、同9.3%増の1,125億円となり、堅調に成長を続けております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

## ① ライトノベル

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期をやや下回る107点（前年同期比7点減）となりました。一方で、当第2四半期累計期間に刊行したシリーズ累計455万部を誇る主力タイトル『ゲートSEASON2』や人気シリーズの『とあるおっさんのVRMMO活動記』等の続巻の売行きは堅調に推移いたしました。加えて、当第2四半期会計期間においても第1四半期会計期間に引き続き、当社投稿サイトから誕生した新シリーズが好調であり、『気まぐれ女神に本気でキャラメイクされました』や『巻き込まれ召喚!? そして私は『神』でした??』等のタイトルは増刷となり、順調に発行部数を伸ばしております。また、電子書籍販売につきましても、親和性の高い女性向け恋愛小説を中心に引き続き好調に推移いたしました。

結果、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回る金額で着地いたしました。

## ② 漫画

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期を大幅に上回る35点（前年同期比10点増）となりました。当第2四半期累計期間においては『ゲート』の続巻の売行きが堅調であり、加えて、当第2四半期会計期間に刊行した『異世界に飛ばされたおっさんは何処へ行く?』や『じい様が行く』等の新規コミカライズタイトルの売行きも好調に推移いたしました。また、漫画のラインナップ拡充に伴い、漫画と親和性の高い電子書籍販売につきましても、大幅に拡大いたしました。

結果、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回り、当第2四半期会計期間における四半期ベースの売上高は、過去最高を更新いたしました。

## ③ 文庫

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期を大きく上回る81点（前年同期比19点増）となりました。当第2四半期累計期間にTVドラマ化された『居酒屋ぼったくり』の売行きが好調であり、同タイトルが売上を牽引いたしました。加えて、当第2四半期会計期間では、新たなジャンル拡大の一環として力を入れている「キャラ文芸」に関して、2017年12月に実施した「第1回キャラ文芸大賞」の受賞作である『神様の棲む猫じゃらし屋敷』、『あやかし蔵の管理人』他、合計5作品の書籍化を行い、その内4作品を増刷する等、大きな成果を上げることができました。

結果、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る結果となりました。

## ④ その他

当第2四半期累計期間では、シリーズ発行部数累計83万部を突破した『居酒屋ぼったくり』の最新刊10巻を刊行し、同タイトルが売上を牽引いたしました。さらに、取扱いジャンルの拡大に向けて、絵本、ライト文芸、ビジネス書といった幅広いジャンルの書籍を刊行いたしました。

結果、当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る15点（前年同期比4点増）となり、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,249,406千円（前年同期比21.9%増）、営業利益は609,207千円（同196.4%増）、経常利益は609,552千円（同196.2%増）、四半期純利益は390,113千円（同197.2%増）となりました。特に、当第2四半期会計期間においては営業利益及び経常利益は3億円を超え、四半期ベースで過去最高となりました。

なお、平成30年1月に実施した当社ゲーム事業の譲渡に伴い、第1四半期会計期間より、報告セグメントを「出版事業」の単一セグメントに変更したため、セグメント別の記載を省略しております。

## (2) 財政状態に関する説明

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前事業年度末の数値と比較を行っております。

### ① 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末と比較して469,584千円増加し、5,896,561千円となりました。これは主に、売掛金の回収に伴う現金及び預金の増加（前事業年度末比519,670千円増）及び売掛金の減少（同86,229千円減）によるものであります。

固定資産は、前事業年度末と比較して14,508千円減少し、198,633千円となりました。これは主に、無形固定資産に含まれるソフトウェアの償却を行ったことにより、無形固定資産が減少（同9,431千円減）したことによるものであります。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ36,145千円増加し、1,226,972千円となりました。これは主に、返品率の改善に伴い返品調整引当金が減少（前事業年度末比36,506千円減）したこと及び未払消費税等の減少等によりその他が減少（同35,464千円減）した一方で、事業が堅調に推移したことに伴い未払法人税等が増加（同117,398千円増）したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ28,817千円増加し、51,620千円となりました。これは主に、運転資金の調達に伴う長期借入金の増加（同29,544千円増）によるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ390,113千円増加し、4,816,601千円となりました。これは全て、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における、現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ519,670千円増加し、3,672,608千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは486,979千円の収入（前年同期は342,334千円の収入）となりました。主な増加要因は、税引前四半期純利益の計上、減価償却費、及び売上債権の減少によるものであります。また、主な減少要因は、法人税等の支払額、返品調整引当金の減少、及びたな卸資産の増加によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは3,129千円の収入（前年同期は14,670千円の支出）となりました。これは全て、出資金の回収によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは29,560千円の収入（前年同期は20,752千円の支出）となりました。増加要因は全て、運転資金の調達に伴う長期借入れによるものであります。また、主な減少要因は長期借入金の返済によるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績予想につきましては、平成30年5月11日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,152,938	3,672,608
売掛金	2,037,594	1,951,364
製品	132,638	154,937
仕掛品	87,175	102,124
その他	16,629	15,525
流動資産合計	5,426,976	5,896,561
固定資産		
有形固定資産	12,793	11,454
無形固定資産	55,690	46,259
投資その他の資産	144,657	140,919
固定資産合計	213,141	198,633
資産合計	5,640,118	6,095,194
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	63,581	56,011
1年内返済予定の長期借入金	34,921	35,664
未払金	411,802	416,451
未払法人税等	111,040	228,438
賞与引当金	32,733	25,629
返品調整引当金	433,097	396,590
その他	103,649	68,185
流動負債合計	1,190,826	1,226,972
固定負債		
長期借入金	18,808	48,352
その他	3,995	3,268
固定負債合計	22,803	51,620
負債合計	1,213,629	1,278,592
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	2,708,976	3,099,090
自己株式	△137	△137
株主資本合計	4,426,488	4,816,601
純資産合計	4,426,488	4,816,601
負債純資産合計	5,640,118	6,095,194

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	1,845,297	2,249,406
売上原価	679,587	669,253
売上総利益	1,165,709	1,580,152
返品調整引当金戻入額	436,579	433,097
返品調整引当金繰入額	394,108	396,590
差引売上総利益	1,208,180	1,616,658
販売費及び一般管理費	1,002,611	1,007,451
営業利益	205,569	609,207
営業外収益		
受取利息	11	14
その他	465	463
営業外収益合計	476	477
営業外費用		
支払利息	248	132
営業外費用合計	248	132
経常利益	205,797	609,552
税引前四半期純利益	205,797	609,552
法人税等	74,539	219,438
四半期純利益	131,258	390,113

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	205,797	609,552
減価償却費	56,512	11,378
賞与引当金の増減額 (△は減少)	7,555	△7,104
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△42,471	△36,506
受取利息及び受取配当金	△11	△14
支払利息	248	132
売上債権の増減額 (△は増加)	80,588	86,229
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,988	△37,247
仕入債務の増減額 (△は減少)	△15,405	△7,570
未払金の増減額 (△は減少)	△4,851	4,649
その他	23,923	△35,476
小計	306,898	588,022
利息及び配当金の受取額	11	14
利息の支払額	△248	△132
法人税等の支払額	△452	△100,924
法人税等の還付額	36,125	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	342,334	486,979
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
無形固定資産の取得による支出	△16,773	-
出資金の回収による収入	2,103	3,129
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,670	3,129
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	-	50,000
長期借入金の返済による支出	△20,026	△19,713
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△726	△726
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,752	29,560
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	306,911	519,670
現金及び現金同等物の期首残高	2,478,034	3,152,938
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,784,945	3,672,608



（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（追加情報）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）及び当第2四半期累計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

当社の報告セグメントは、従来「出版事業」と「ゲーム事業」の2事業に区分しておりましたが、第1四半期会計期間より、「出版事業」の単一セグメントに変更しております。

この変更は、平成30年1月に行ったゲーム事業の譲渡に伴うものであります。

これにより、当社の報告セグメントは「出版事業」の単一セグメントとなることから、前第2四半期累計期間及び当第2四半期累計期間のセグメントの記載を省略しております。